

2015年10月14日 ふくしま再生の会 第9回活動報告会 認定NPO法人ふくしま再生の会理事 菅野宗夫

農地の除染風景

居宅除染から農地除染へ急ピッチ 数値目標のない除染に不信も 村民**6,200**人に入れ替わって**5,000**人の除染作業員



田園風景が・・・

延々と続く「フレコンバッグ」の山 再生に欠かせない優良農地を占有(800haのうち300ha強)



役場南側にあった山が・・・

除染で表土を削り取ったところに客土するために山を切り崩す。 風景が一変。



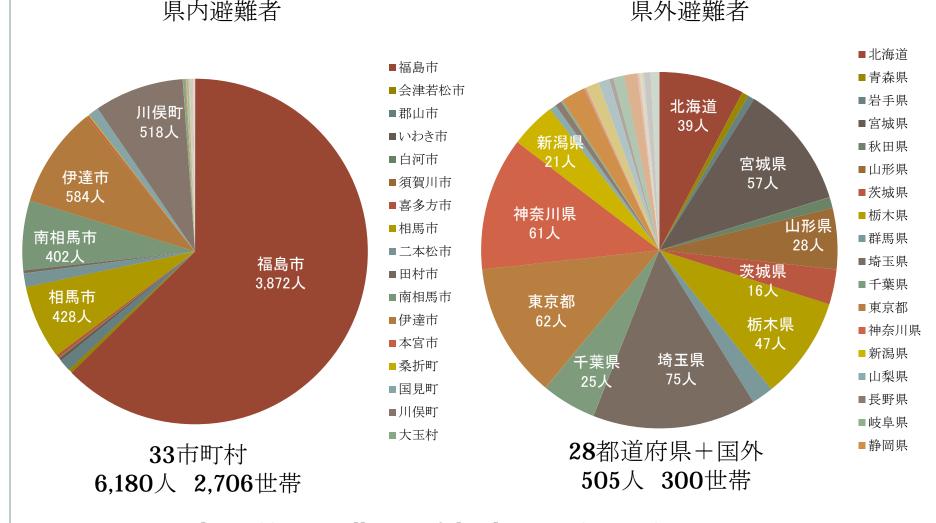
2013年5月 (Googleストリートビュー)

役場南側にあった山が・・・

本日(2015年10月14日)の現場風景



平成27年10月1日現在の避難状況



http://www.vill.iitate.fukushima.jp/saigai/?p=8445

「最長で平成29年3月帰村」

と原発事故前の生活に近づける制度

「住民が抱えている不安をどう和

(住民の)生活を震災

避難指示解除や帰還後の村民生活の考え方は

等にしよう』とする政府の方針は評 はない。そこにつらさがある。 金についての考えは住民それぞれで は住民の心の分断。放射線量や賠償 てどう捉える。 違っており、全ての意見が間違いで 「全村避難で一番悩んでいること

民生活の展望などについて聞いた。 駅を中心として復興拠点の整備など 避難が続く飯舘村は、避難指示解除 指示を解除するとの政府方針につい 解除の時期の考え方や、帰還後の村 が進む。菅野典雄村長に、避難指示 最長で17年3月の間」との見通しを て「最短で2016(平成28)年3月、 |帰還困難区域を除く)の時期につい -17年3月までに避難区域の避難 復興事業を進めている。村内 国による除染をはじめ、道の

ÆK 2015-7.

座標輔

できるかどうか分からないが、訴え 支援の制度が必要だと感じている。 頑張って足らないところを補う生活 も、戻らない人にとっても、自力で

自立につながる制度必要

の補充は0円という制度を考えてい の後は40万円ぐらいに下げ、その次

村民が抱えている不安を取り除

を目的とした制度。

例えば(震災前

考えではなく、自立してもらうこと

「現在の営業損害(賠償)という

生活支援の制度とは、具体的に。

に)100万円の収入があるとすれ

70万円を2、3年間補充し、

量は、できるだけ下げる努力をしな くてはならないと考えている」

災前の) た人がいる。うなずける話だと思っ リスクコミュニケーションの機会を けない。1㎡젉の呪縛を取るために、 という考えだ。不安を取り除くため ている、ではなく、帯状になっている つながる制度が必要ではないか」 期的で、段階的に(住民の)自立に た。単年度ではなく、できるだけ長 するために必要だと感じている」 き、ソフトランディング(軟着陸 (放射能の危険性などについて学ぶ) 万はあらためるべき。 に本気になって取り組まなければい 『安心』の間に(境界)線が引かれ 「自立という考えは大切だ。 年間被ばく線量については。 村づくりに必要なことは。 孫の世代までかかると言っ 『自立の村づくり』に戻る 『危ない』と

価して良いのではないか」

年研究連盟会長、県公民館連絡協議会副生まれ。68歳。帯広畜産大卒。県酪農青かんの・のりお 1946(昭和21年) 村長は5期目。

福島民友2015年7月6日

飯舘村役場本庁

福島市飯野町に移転中。 現在、本庁にもどっているのは一部の部署のみ。



2015年10月14日

いいたて までいな復興計画 (第5版)

ーネットワーク型の新しいむらづくりー



「平成 26 年度 草野・飯樋幼稚園はっぴょう会

平成27年6月17日 飯 舘 村

http://www.vill.iitate.fukushima.jp/saigai/?p=1406

ネットワーク型の新しいむらづくりのイメージ

村外で営農を再開した人と、これから村内で営農再開に取り組む人たちが、一緒に「いいたてブランド」農産品の再生に取り組む

家族より先に帰村する高齢 者や要支援の村民を、避難 先の家族と村内に暮らす村 民が一緒に支える

村に戻る人

村外から、村を支援したい人、訪れたい人、暮らしたい人を積極的に受け 入れる

戻らない人 戻れない人

人と人との ネットワーク

村外に暮らす人が、地域 の人とお互いに会った り、村外で交流のための イベントを行う 今後のいいたてを 一緒につくる、考える

村内外の両方に生 活拠点を置く人 (二地域居住)

村外に暮らす人と、村に 戻った人が、まち並みの 修復などに一緒に取り組 む 村民以外の人

村外の人に、村の復興の 様子や村民の活動を、講 演やインターネットで積 極的に知らせる

(第5版)における復興の考え方

ネットワーク型の新しいむらづくり

一人ひとりの生活再建

1)避難生活における問題点の早急な改善

避難生活においての問題点の改善 を進め、利便性の確保と心身の健康維 持を図ります

2)安心して生活できる徹底した放射線対策の推進

村内居住者だけでなく、飯舘村に 関わる多様な人々が安心して暮らし たり、活動したりできるよう、放射 線対策を徹底します

人と人とのネットワーク構築による むらの再生

3)帰村に向けた、「今から」の準備

避難指示解除に向けて、生活インフラの再建や、行政区などのコミュニティ再生など、 平成27年、28年度で準備できることに着実 に取り組んでいきます

4)生活・産業再建をけん引する拠点と担い手づくり

復興の拠点や活動の中核となる担い手づく りを推進し、徐々にその輪を村内外に広げて いきます

拠点では帰村時に不可欠な生活支援サービスを提供し、また、産業再生の起点として活用していきます

5) 村の再生と村民の生活・生業の 再建

村を支える産業や生活サービスの担い手、 飯舘ならではの文化・交流活動の担い手な ど、多様な世代が生業としてあるいは生きが いとして参加する形で「飯舘村の再生、新し いむらづくり」を進め、村民の生活・生業の 再生を図ります

現在の課題解決

未来に向けた施策

当面の取り組み施策・事業

本計画で取りまとめた、当面 本計画の取り組みの5本柱 の取り組み施策・事業 ネットワーク型の新しい むらづくり 重点 4 分野での取り組み推進 ●教育 1) 避難生活における問題点の ●暮らし 早急な改善 ●健康・福祉・高齢者 ●農地保全・営農再開 2)安心して生活できる徹底し ※村民部会での検討内容(第 た放射線対策の推進 2部参照)を反映 3)帰村に向けた、「今から」の 準備 復興の拠点・中核的担い手づ 4) 生活・産業再建をけん引す < n る拠点と担い手づくり ●村内復興拠点エリアの整 5)村の再生と村民の生活・生 ●「までいの村 陽はまた昇 業の再建 る基金」

村民による具体的な話し合いは、これから。

山津見神社の再生

2013年4月1日未明に火災により焼失してしまった山津見神社拝殿の再建。



完成直後。銅葺きの屋根が輝いている 2015年6月



屋根の風合いが落ち着いてきた 2015年10月

山津見神社の再生

2013年4月1日未明に焼失してしまった山津見神社拝殿のオオカミの天井絵。 和歌山大学の加藤久美さん、サイモン・ワーンさんが撮影した写真を元に、 東京藝術大学の荒井経准教授のもとで復元プロジェクトが進んでいる。

(10月24日に「天井絵復元完成記念フォーラム」を開催)。





http://yamatsumi-jinja.tumblr.com/

再生への取り組み

養液点滴栽培によるレタスの収穫。 集約型のハウス栽培から、土壌を使用しない栽培の取り組み。



「宗夫ハウス」のレタス栽培



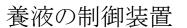


「永徳ハウス」のトマト栽培

再生への取り組み

「明大ハウス」最先端技術を活用 養液土耕栽培によるピーマン・パプリカの栽培







営農再開の先駆けに

松塚地区 山田猛史さん 避難先で営みを続け、地域の再生へ



「福島県飯舘村の関根松塚地区で、除染後の水田を放牧地として活用する構想が動きだした。農業山田猛史さん(66)が自らの水田で来年、牧草栽培試験を行おうと準備中だ。」

河北新報2015年10月11日

夢大らかに一飯舘村民歌



夢大らかに (作詞 小林金次郎 作曲 石河 清)

山 美わしく 水 清らかな その名も飯舘 わがふるさとよ みどりの林に 小鳥は歌い うらら春陽に さわらび萌える あゝ われら 今こそ手と手 固くつなぎて 村を興さん 村を興さん

土 よく肥えて 人 情ある その名も飯舘 わがふるさとよ 実りの稲田に 陽は照りはえて 続く阿武隈 山幸歌う あゝ われら 夢大らかに ともに励みて 村を富まさん 村を富まさん

